

2010.2.22 「予算審議 自民党は野党として徹底抗戦せよ」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

ホームページのビデオレターの更新が少し遅れてしまいました。昨日の長崎の知事選挙の応援や、党からの派遣で講師としていろいろな県に行っておりまして、なかなか更新の機会が作れませんでした。

さて、民主党が国民の大きな支持率を得て政権交代をしましたけれども、結局その政権自体に中身がありませんでした。国民を裏切ることが次々行われていくことに対する、国民の大きなノーという反応が、昨日の長崎県の知事選挙では投票に現れ、潮目が変わってきたことを実感する結果となりました。今後も、民主党の出鱈目な政策を次々明らかにしていかなければならないと考えております。

今、国会では予算の審議をしていますが、このまま衆議院で今月中に予算が可決してしまうと、参議院でいくら我々が色々な問題点を質そうと思っても、憲法の30日ルールにより、衆議院が可決してから一ヶ月経つと自動的にその予算は通過し、参議院の審議自体が消化試合になってしまいます。そうならないためにも、衆議院で徹底した論戦をしていかなければなりません。しかし、残念ながら民主党が衆議院では圧倒的多数を持っているために、証人喚問要求、参考人招致を全く受け入れません。さらに、予算が決まる前に箇所付けを民主党の中で決め、それぞれの県連に報告する等、国会を全く無視した様々な問題点があります。それにも係わらず、そのことについての謝罪、責任の所在、説明責任などいずれも明らかにしないということは、私は問題だと思っています。

したがって、これから衆議院では、自民党のそのような要求を民主党が受け入れない限り、予算の審議はしないとするのは、私は野党としての当然の方針であると思っております。数において決定的に不足しているからこそ、国民に様々な形で訴えていかなければなりません。今回の強行的な手段も、私は野党としては無理からぬことだと、谷垣総裁の判断に大いに賛同をおくりたいと思っております。ただ問題は、長崎県の知事選で勝ったからと、唐突に審議拒否をしたことです。予算審議の過程の中ですべきだったと思います。

これから参議院に予算の審議の機会が回ってまいります。その時には、日頃から私が訴えてきた小沢・鳩山問題だけではなく、民主党の様々な問題点について皆様方にお示ししていきたいと思っております。今後とも、御支援よろしくお願いいたします。有り難うございました。